

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒101-8441

住 所 東京都千代田区神田錦町1-25

氏 名 日清製粉(株)取締役社長 山田 貴夫

代理人 取締役鶴見工場長 高橋 誠一郎 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	日清製粉株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区大川町 3-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	09	食料品製造業
主たる事業 の内容	小麦粉製造業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	13,932	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
		電話番号	
		FAX番号	
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2021 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1、2、4号該当者等）

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 26,737 (調) 26,018	(実) 26,717 (調) 25,990	(実) 25,486 (調) 24,665	(実) 27,064 (調) 27,444	(実) 25,935 (調) 25,237
削減率		(実) 0.1% (調) 0.1%	(実) 4.7% (調) 5.2%	(実) -1.2% (調) -5.5%	(実) 3.0% (調) 3.0%

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値（任意記載）

	換砕数量				原単位等の単位	t-CO2/トン
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度		
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)		目標とした値
排出量原単位等の値	0.04259	0.04155	0.03990	0.04315		0.04131
活動量の値	627775.2	642875.2	638698	627094		-
排出量原単位等の削減率		2.4%	6.3%	-1.3%		3.0%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	生産数量は前年度より、2.4%増加したが、省エネ施策(サクシオンファンの回転数制御、ルーツブロワやサクシオンファンの能力見直し、ライン改修、コンプレッサー台数制御の見直し、粉バラタンク排出設備稼働時間の短縮化等)を実施し設備効率化を図った為、CO2排出量及び原単位が減少した。	
第2年度	生産数量は前年度比0.65%減少とほぼ横ばいであったが、消費電力量が前年比2.1%減少となった。省エネ施策(老朽化チラーの更新、定風量バルブの見直し、コンプレッサー室排気ファン回転数の自動制御化、小袋包装関連設備の設定圧力の見直し、Gミル微陽圧設備ファン回転数の見直し等)の実施により、消費電力の削減及びCO2排出の削減を図った。	
第3年度	生産量は前年比1.8%減少し、消費電力量も0.9%減少となった。省エネ施策(製造ペレットドライヤーファン風量適正化、小袋微陽圧ファン風量適正化、ミル定風量バルブ見直し、パッカータンク上自動風量制御導入など)を実施し、消費電力及びCO2排出量の削減を図った。特筆すべきは、期半ばより電力供給会社を変更したため使用電気の排出係数が前年比9.6%増加した。その結果、排出量原単位も前年比8.3%増加し、2018年度比排出原単位の削減率は1.3%増加となった。(参考までに、電力供給会社を変更しなかった場合、使用電気の排出係数が前年比2.2%減少する。その結果、排出量原単位も1.3%減少し、2018年度比排出原単位の削減率は7.4%減少となる。即ち、目標3.0%削減に対し、大きく達成したことになる。)	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		各年度とも省エネ施策に前向きに取り組んだ。1、2年目は着実に排出量原単位削減率を上げてきた。3年目については、電力供給会社の変更が無ければ削減率を順調に上げていた。このことから、3年間取り組んだ省エネ施策は、排出量原単位の削減に十分に寄与したと評価できる。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		引き続き、省エネ施策に取り組んでいく必要がある。老朽化した空調機や高圧トランスを、高効率仕様機器へ更新するなど継続的な設備投資を行ってきたい。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）（任意記載）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>①生産設備のエネルギー管理                  ・各生産工程における必要風量を把握し、ファン回転数の適正化および負荷の平準化対策等を実施する                  ・各生産工程における圧縮空気必要量の見える化を進め、圧縮空気配管経路の適正化やエア漏れ是正の迅速化等を実施する                  ・冷却設備の運用マニュアル整備および自動制御の適正化を進め、運転の効率化を図る                  ②照明設備の運用管理                  ・老朽化更新や照度見直しに合わせ、LED照明や無電極ランプ、超広角ランプ等の高効率照明を導入する。</p>
<p>第1年度</p>	<p>①生産設備のエネルギー管理                  ・各所サクシオンファン12台について、インバーターによる回転数制御で風量調整を実施した。                  ・ルーツブロワ、サクシオンファンの能力見直し及び高効率化更新及びライン改修を実施した。                  ・夏場の高負荷機器(空冷チラー、空調機、コンプレッサー)の適正なメンテナンス整備を実施し、設備の安定稼働を図った。                  ・粉バラタンク排出設備の回転周波数を可変出来るよう改修し、積込時間(稼働時間)の削減を図った。                  ②照明設備の運用管理                  ・製造本館やGミル、小袋包装室の照明の一部をLED化した。</p>
<p>第2年度</p>	<p>①生産設備のエネルギー管理                  ・A~Fミルの定風量バルブの見直しを行い、ニューマファンの負荷削減を図った。                  ・老朽化した夏場高負荷機器チラー(A・B・Cミル)を更新した。                  ・製造本館コンプレッサー室の排気ファン回転数を自動制御化した。                  ・Gミル微陽圧設備のメンテナンス体制整備及びファン回転数の見直しを行った。                  ・小袋包装設備関連の圧空配管の系統見直し及び設定圧力の見直しを行った。                  ・製造本館及び出荷場等のエア漏れ箇所の見直しとその補修を継続的に実施した。                  ②照明設備の運用管理                  ・製造本館及び倉庫の照明の一部を、LED仕様に更新した。</p>
<p>第3年度</p>	<p>①生産設備のエネルギー管理                  ・ミル定風量バルブの見直しを行い、ニューマファンの負荷削減を図った。                  ・コンプレッサー排気ファンの自動風量制御導入                  ・パッカータンク上ファン(5列~8列)自動風量制御導入                  ・Cミルダイヤ改修                  ・工場内のエア漏れ箇所220件補修済み(73%達成率)                  ②照明設備の運用管理                  ・製造本館及び厚生棟(体育館)の照明の一部を、LED仕様に変更した。</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>各年度、計画した項目について積極的に省エネ活動・設備投資・人的投資を行うことができた。ただ、高負荷機器の空調機等については、今後更に適切な整備や更新を進めていくことが温室効果ガスの排出削減に繋がっていくものと考えている。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他( )		
その他( )		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光	構内倉庫屋上に600KWの発電パネルを設置	2013年度
風力	厚生棟屋上に小型風力発電設備2台を設置(自社消費)	2008年度
太陽光 発電電力量	2018年度 577,721kWh/年(全量売電)	2013年度
太陽光 発電電力量	2019年度	2013年度
太陽光 発電電力量	2020年度	2013年度
風力 発電電力量	2018年度 83KWh/年(自社消費)	2008年度
風力 発電電力量	2019年度	2008年度
風力 発電電力量	2020年度	2008年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他( )	
EV、PHV、FCV	×	その他( )	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	
第1年度	
第2年度	
第3年度	

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン購入を継続する</li> <li>・運送委託会社に対するエコドライブの実施の要請</li> <li>・社員に対する環境研修会の開催</li> <li>・2021年度の産業廃棄物排出量を2018年度比で3%削減する(497t→482t)</li> </ul>
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン購入(コピー用紙、ボールペン等の文房具)を継続した。</li> <li>・運送委託会社に対するエコドライブの実施の要請した。</li> <li>・社員に対する環境研修会(本社環境管理室、工場環境保全担当者)の開催</li> <li>・2019年度の産業廃棄物排出量は、2018年度比で1%削減した。(497t→492t)</li> </ul>
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン購入(コピー用紙、ボールペン等の文房具)を継続した。</li> <li>・運送委託会社に対するエコドライブの実施の要請した。</li> <li>・工場環境保全担当者による2020年度環境研修『排出事業者の責任について』を実施。</li> </ul>
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン購入(コピー用紙、ボールペン等の文房具)を継続した。</li> <li>・運送委託会社に対するエコドライブの実施の要請した。</li> <li>・工場環境保全担当者による2021年度環境研修『環境中長期目標について』及び『産廃粉の分別について』を実施。</li> </ul>

6 基準年度からのエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量	26,737 t-CO <sub>2</sub>	26,717 t-CO <sub>2</sub>	25,486 t-CO <sub>2</sub>	27,064 t-CO <sub>2</sub>
原油換算エネルギー 使用量	14,004 KL	14,190 KL	13,865 KL	13,932 KL
事業所の数	1	1	1	1

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
日清製粉 (株) 鶴見工場	川崎市川崎区大川町 3-1	26,737	26,717	25,486	27,064

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度